



レクチャー・コンサート～チェンバロ～ 楽器と調律法の変遷



2020年3月29日(日) 開場：17時30分

開演：18時～19時30分(終了予定)

会場：Space 415 (中野駅北口徒歩12分 <http://space415.info/>) 東京都中野区新井2-48-12

入場料：2000円(要予約・アンサンブル受講生無料)

*****ナビゲーター：岩田耕作*****

出演：岩田明子(ソプラノ) 岩田耕作(チェンバロ)

賛助出演：西谷奈菜(ソプラノ) 下川れいこ(チェンバロ) 岩田悠花(バロック・ヴァイオリン)

スペース415にはイタリアンとフレミッシュという、2台の異なるタイプのチェンバロがあります。これらのチェンバロの響きの違いや、バロック時代に用いられた古典調律の変遷を、解説を交えながら音で実際に聴き比べます。また古典調律を使った場合の声楽やヴァイオリンなどの旋律楽器とのハーモニーはどう変わるか、アンサンブルの演奏も併せてお聞きいただきます。

*****使用楽器と曲目*****

小淵晶男 1980年製イタリアン ショートオクターヴ((Ridolfi 1665年の複製)

細長いボディで薄い糸杉材を用いたイタリアンは軽やかで明るい響きがします。その明瞭な音はミーントーンで調律されたときの純正三度の澄み切った響きを、よりはっきりと感じることができます。

*****演奏曲目*****

- G. ピッキ「ポーランドのバツロ (Ballo Alla Polacha)
- M. カッツァーティ「意中の彼女 (Amante che mirato)」
- オペラ「オルフェオ」よりエウリディーチェ
ああ、あまりにも優しくあまりにも痛々しいお姿
(Ahi, vista troppo dolce e troppo amara)
- J.J. フローベルガー トッカータ第2番



久保田彰 1996年製フレミッシュ 1段鍵盤チェンバロ

現在のオランダからベルギー北部のフランドール地方で作られたタイプの楽器をフレミッシュと呼んでいます。フレミッシュは当時宮廷文化華やかだったフランスで主に愛用されました。分厚い板を用い共鳴箱も深めで全体的にどっしりとした感じですが、柔らかく伸びる響きはフランスの華麗で装飾的な音楽を演奏するのに適していると言えます。調律においては複雑な和声や転調を用いるようになったバロック後期にはミーントーンだけでは対応できなくなり様々な調律法が考案されました。

*****演奏曲目*****

- F. クーブラン 第6オールドルより「心地よい恋やつれ (Les langueurs tendres)」
- C. デュパール 組曲第3番より「序曲 (Ouverture)」
- M.P. モンテクレール カンタータ「帰ってきた平和 (Le retour de la paix)」より



ご予約 / お問い合わせ ハルモニー・セレスト(岩田耕作)

E-mail: info@h-celeste.jp TEL:090-9472-3147

reikopiano 企画(下川)

E-mail reikopianopr@gmail.com FAX:03-3536-8037